

未来を担う青年農林水産業者

部門	氏名（住所）	受賞理由
園芸	<small>あんど う しょう ま</small> 安藤 翔馬 （湯梨浜町）	<ul style="list-style-type: none"> 東京からの I ターンで令和 2 年に新規就農。現在、全体 70 a で梨栽培に従事している。 優良果樹園継承促進事業奨励金を活用し、優良園を園地継承しつつ、令和元年に新設された松崎駅南梨生産団地に入植。 有望な品種においてジョイント栽培を積極的に導入し、作業の効率化、省力化及び経費削減に取り組んでいる。駅南梨団地では防除担当を受け持ち、全体の年間防除に携わり、その責任感から入植者からの信頼も厚い。 花見果樹研究会では会長を努め、活動を活発化させ、令和 2 年から果実部指導員、令和 6 年からは果実部役員に着任。就農支援担当として、新規就農リクルート活動や新規就農者支援、果実部イベント開催など力を注いでいる。
園芸	<small>いくは し けん ご</small> 生橋 健吾 （北栄町）	<ul style="list-style-type: none"> 平成 26 年に独立就農し、認定新規就農者、令和 3 年から認定農業者となり、地域では珍しい果樹と花きの複合経営に取り組む。 梨においては、就農当初よりジョイント仕立てやロボット草刈機などを導入し、作業を効率化している。また、網掛け施設の整備、枝管理の徹底と葉面散布剤等の積極的な活用により、高品質な果実の安定生産を行っている。 花きにおいては、6～8 月の菊、11～12 月のアスター、3～4 月のストックと周年生産を行い、施設・機材利用の効率化を実践している。とくにストックにおいては春季出荷の作型に取り組み、先進的事例となっている。 令和 4 年より大栄花き部会役員として地域の指導者となり、花育や広報資材の作成にも積極的に取り組んでいる。
水産	<small>かわべ ゆう た</small> 川部 雄大 （岩美町）	<ul style="list-style-type: none"> 平成 20 年より家業である沖合底曳網漁船（恵長丸）の船員として乗船をはじめ、早くから 5 級海技士（機関）免状を取得し、その後も 6 級海技士（航海）免状を取得するなど意欲的に取り組む。 平成 29 年には恵長丸の機関長になり、知識と経験を積み上げてきた。 日本人船員をはじめ、外国人船員の指導も担うリーダー的立場となり、まとめ役として船員からの信頼を得られるよう努めている。こうした中で来漁期からは船長として重要な役割を担う事となっている。

部門	氏名（住所）	受賞理由
園芸	<small>くまがい けいすけ</small> 熊谷 圭介 （倉吉市）	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年2月に経営を開始。 半促成の西瓜栽培中心の経営に加え、後作として抑制ミニトマト、抑制西瓜、カブ等の品目を導入し、年間所得の安定に繋がっている。 栽培面積も年々増やしており、安定栽培に繋がる農地の情報を積極的に集め、高品質の栽培を行えるよう努めている。 西瓜検査員として、4年間活動する中で、様々な意見を取り入れて栽培の幅を広げている。 青年部の活動を通じて周りの生産者との繋がりを大切にし、日々、栽培技術向上に努めている。
畜産	<small>くらとみ はるや</small> 蔵富 晴也 （倉吉市）	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年に就農後、家畜人工授精師の資格を取得し、母牛の血統を考慮した計画交配により肥育農家が求める素牛づくりに取り組んでいる。 自給飼料生産に加え「WCS」を有効活用することで飼料費の抑制に努めている。「WCS」は嗜好性が高いため、繁殖経営の場合、給与量を誤ると牛に余分な脂肪が付きやすく受胎率の低下が危惧されるなど敬遠されがちであるが、徹底した飼育管理により受胎率の低下を防いでいる。 和牛生産部若者グループに所属し、他の生産者との関わりを深め、地域の畜産振興に努めている。
園芸	<small>たかみ しげる</small> 高見 滋 （大山町）	<ul style="list-style-type: none"> 1年間アグリスタート研修を実施し、平成29年2月に就農。 令和6年度に鳥取西部農協大山ブロッコリー部会の運営委員に就任。現在就農9年目となり、安定した収量と高品質なブロッコリー生産を実現。地域の担い手として信頼を寄せられることで農地が集まるようになった。 事業活用による機械導入、雇用労力の確保、作業の効率化を図り、年々規模拡大を進めている。また、広域センター出荷と個選出荷をうまく活用し、出荷ロスの低減を図ることで、経営の安定化に取り組んでいる。 令和6年2月には生産部で6農場目となるJGAP認証農場となり、「大山ブロッコリー®JGAP品」として出荷も行っており、意欲的に栽培に取り組んでいる。

部門	氏名（住所）	受賞理由
園芸	たけだ ひでのり 竹田 秀則 （琴浦町）	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年に新規就農し、計画的に規模拡大を行っている。夏季はブロッコリーの端境期で収入がないため、栽培品目として新しくオクラを導入するなど、経営改善に取り組んでいる。 令和6年から琴浦ブロッコリー生産部役員として活動しており、先進地視察や販売対策会議などに積極的に参加している。琴浦ブロッコリー青年部の活動にも参加し、青年部員と積極的に意見交換を行っている。 その他にも赤碕こども園のブロッコリー収穫体験に協力するなど、食育活動にも貢献しており、地域の牽引役として他の模範となる若き担い手である。
水産	はま べ まさゆき 濱辺 誠之 （鳥取市）	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年4月より鳥取県漁業研修事業を利用、令和6年4月に鳥取県漁業経営開始円滑化事業の実施により新船を建造して独立経営を開始。現在は刺網漁業といか釣り漁業を主体に、資源動向の変化が激しい環境下の中でも安定した水揚げを確保している。 ウニ駆除等の活動にも積極的に取り組み、資源管理を徹底して有限である資源を大切に守りながら操業に精進している。 若手漁業者の一人として地域の様々な事業や行事等にも精力的に参加するなど周囲の信頼も厚く、鳥取県漁業協同組合浜村支所において、地元漁業の将来を担う若手漁業者として期待されている。
園芸	まえた しゅうさく 前田 修作 （八頭町）	<ul style="list-style-type: none"> 1年間アグリスタート研修を実施し、令和2年2月に就農。常に疑問を持って、自身のほ場に合った白ねぎ栽培方法の改善に取り組んでいる。 近年、夏季の高温干ばつや大雨の発生により、白ねぎが栽培しにくい状況になっているが、複数の品種を栽培することで、自身のほ場や栽培方法に適した品種を探索している。 八頭町の白ねぎほ場の多くが水田転換畑であり排水性が良くないため、白ねぎ作付け前に緑肥を栽培し、耕盤層の透水性を改善し、排水性を向上させている。 八頭町船岡地区ではほとんど取組まれていない、白ねぎの周年栽培に挑戦。作型に合った品種の選定、土寄せや防除、雑草管理を適期に実施することで計画通りの出荷が実現。 船岡白ねぎ生産部に所属し、新規栽培者に対して栽培管理について助言を行うなど、すでに指導的な立場として活躍している。